

フランス語における副詞的形容詞と
接尾辞-ment を伴う副詞の競合について
—fort / fortemment、net / nettement、dur / durement の場合—

関 敦彦

1. はじめに

フランス語では、例文(1)の *fort* のように、形容詞と同一形態(ゼロ派生)のまま副詞として使用される語彙が存在する。これらの語彙を本研究では副詞的形容詞(以下 AA : Adjectif adverbial)と呼ぶ。よく知られている通り、フランス語では形容詞から副詞を派生する場合に接尾辞-ment を付加することが一般的であり、少なくとも語のタイプ頻度(以下 Fréq. Type)の観点から見ると AA は例外的な存在であると考えられる。

(1) Il la serra plus *fort*, mais elle se dégagea et lui dit sur un ton méprisant (...).¹

「彼は彼女をより力強くつかんだ。しかし彼女は振りほどき、意地悪な口調で言った。」

(SABATIER Robert, Les Allumettes suédoises, 1969, p.120)

2. AA とは？

本研究で扱う語彙は主に動詞の様態や数量表現を表している。そのため、統語テストとして、様態を示す代形(proforme : *comment*、*ainsi* 等)で置き換えられる場合が多い。たとえば、例文(2b)のような回答を引き出すためには、例文(2a)のように *comment* を用いた疑問文を提示することが適切であるといえる。

(2a) Elle parle *comment* ?

「彼女はどのように話しますか？」

(2b) Elle parle si *bas* que souvent on ne l'entend pas. (筆者作例)

「彼女はとても小さい声で話すので、聞こえないことが多いんですよ。」

本研究では、動詞句内で使用される形容詞を扱う。ところで、フランス語の動詞句内で使用される形容詞には AA 以外にも複数の機能が確認されるが、これらの事例は本論文では考察対象外とする。1 つは例文(3)で見られる目的語的用法である。これは他動詞が必要とする直接目的語として機能する語彙であると考えられ、また冠詞を伴わないことから無冠詞目的語としてとらえることも可能だ。もう 1 つの用法は例文(4a)で確認できる属詞的用法である。この用法で動詞句内に出現する形容詞は主語や目的語といった

¹ 本論文における例文では説明対象である動詞に下線を引き、AA 等の副詞的要素を斜体で表示している。

文中の名詞句と属詞的な関係にあり、例文(4a)の *furieux* は動詞の示す事態が展開されている時点での主語の性質を表していると解釈できる(cf. 例文 4b)。

(3) A table, règle absolue, tout le monde parle arménien.

「食事の時には、絶対的なルールとして、みんなアルメニア語を話している。」

(DOUBROVSKY Serge, *Un homme de passage*, 2011, p491.)

(4a) L'oncle se leva brusquement, et sortit furieux.

「叔父は乱暴に起き上がり、怒り狂って出て行った。」

(JENNI Alexis, *L'Art français de la guerre*, 2011, p.572)

(4b) L'oncle était furieux en sortant.

3. AA と競合する-ment 副詞

上述の通り、フランス語の副詞としては、接尾辞-ment を付加して形容詞から派生した語 (以下-ment 副詞)の使用が一般的である。しかしながら、ゼロ派生である AA の使用も確認でき、さらに AA と-ment 副詞は一部で競合が発生している。AA と-ment 副詞の競合パターンは表 1 に示す通りである。

表 1 : AA と-ment 副詞の競合パターン

競合の有無	例
AA 存在せず-ment 副詞のみ存在	多くの-ment 副詞が該当
AA のみ存在し-ment 副詞存在せず	<i>gros, dru</i> 等
AA と-ment 副詞ともに存在、意味的に競合せず	<i>bas(ement), haut(ement)</i> 等
AA と-ment 副詞ともに存在、意味的に競合	<i>clair(ement), fort(ement)</i> 等

現代フランス語において、-ment 副詞は高い生産性を持つ一方、ゼロ派生である AA の使用は限定的である。そのため形容詞由来である副詞の多くは-ment 副詞であるといえる。つまり、-ment 副詞と競合する AA は少数であり、多くの-ment 副詞には対応する AA が存在しない。その逆に、AA が存在する一方に対応する-ment 副詞が存在しない場合もある。たとえば、*gros* や *dru* は AA としての使用が確認できる一方、接尾辞-ment を伴う **grosselement* や **druement* といった語は現代フランス語において一般的ではない。

続いて、AA と-ment 副詞双方が存在する場合である。両方の語が存在する場合、意味的な競合の有無に基づき 2 パターンに分けることができる。まず、意味的な競合が存在しない場合である。たとえば、*bas* には *bassement* が、*haut* には *hautement* が存在する。しかしながら、AA である *bas* が事態の生じる位置の低さ、また発話を示す動詞に共起する場合に発される声の音量の低さを示す一方で、*bassement* は「卑劣なやり方で」といった価値判断を示す用法を持っている。また *haut* が事態の生じる位置の高さ、発話者が

発する声の音量の大きさを示すかわら、*hautement* は「きわめて」といった程度を示す役割を果たしている。

最後に、AA と *-ment* 副詞がどちらも存在し、かつ意味的に競合すると考えられる場合について述べる。例として、*fort* や *clair* から派生した語が挙げられる。たとえば、*fort* と *fortement* はいずれも「強く」といった意味を持ち、*clair* と *clairement* もまた「はっきり」といった動作の様態を示す機能を果たしている。

4. 目的と調査手法について

4.1. 本研究の目的

上述の通り、AA には競合する *-ment* 副詞が存在し、かつ意味的にも競合する場合が確認できる。しかしながら、この点に注目した上でコーパスデータをもとに双方の使用の差異を分析した研究は見受けられない。

この点を踏まえ、本研究では動詞の様態を示す AA ならびに同じ形容詞から派生した *-ment* 副詞の出現条件と生産性に関する差異の有無を分析することを目的とする。なお、本稿における出現条件とはどのような動詞と共起するかを指し、生産性は共起語(動詞)の多寡、および意味的なバリエーションを示す。

4.2. 調査語彙

調査語彙はフランス語 AA 辞典である Hummel et Gazdik (2021)(以下 DHAA : Dictionnaire historique de l'adjectif-adverbe) の記述や筆者の調査をもとに選択した²。本研究では、AA と *-ment* 副詞ともに一定の出現頻度を見込める *fort / fortement*、*net / nettement*、*dur / durement* を扱う。調査語彙の派生元となる各形容詞の意味は表 2 の通りである。

表 2：調査語彙とその意味

形容詞	意味
<i>fort</i>	強い、多大な
<i>dur</i>	固い、困難な、厳しい
<i>net</i>	明瞭な、正確な

4.3. 調査資料

本研究では、フランス語の書きことばコーパスである Frantext を使用する。現代の用法を調査するものであることから、1950 年から 2021 年までのデータを使用した。また、文章のジャンルにより使用に差異が見られる可能性も考慮し、収録語数が最も多い「小説 (Roman)」のジャンルのデータに限定して調査を行った。

² Hummel et Gazdik (2021 : 1687) をもとに、共起動詞のタイプ頻度が高い AA を 10 語引用すると、上から順に *fort*、*haut*、*bas*、*droit*、*dur*、*net*、*beau* (bel)、*ferme*、*juste*、*clair* である。

4.4. 各 AA と-ment 副詞のトークン頻度および共起動詞のタイプ頻度

本稿で扱う AA および-ment 副詞のトークン頻度(以下 Fréq. Token)および共起動詞の Fréq. Type は以下の表 3 に示す通りである。本研究の調査で確認された AA に共起する動詞のタイプは fort が最も多い。これは DHAA での記述と同様である。しかしながら、net および dur に関しては、DHAA の記述と異なり、net の方が dur よりも共起動詞のタイプが多く確認された。また、対応する-ment 副詞の場合、最も共起動詞のタイプが多い語は nettement であり、次いで durement、最も少ないものは fortement となる。

表 3：AA と-ment 副詞の Fréq. Token と共起動詞の Fréq. Type³

AA	AA の Fréq. Token	共起動詞の Fréq. type	-ment 副詞	-ment 副詞の Fréq. Token	共起動詞の Fréq. type
fort	3025	115	fortement	92	8
net	597	16	nettement	220	13
dur	210	8	durement	101	11

ところで、コーパス調査で確認された表現の中には、少数の例しか確認されない[動詞 + AA]表現もしくは[動詞 + -ment 副詞]表現も存在する。これらは発話者のパロル的な使用である可能性や特殊な文脈に依存している可能性も考えられ、つまり容認度が低い可能性が考えられる。本研究では、便宜的ではあるが、安定的に容認されると考えられる 5 例以上の生起が確認された[動詞 + AA]もしくは[動詞 + -ment 副詞]のみを扱う。表 3 での数値はこの点を反映したものである。

4.5. 共起動詞の意味

本研究では、AA や-ment 副詞と共起する動詞の分析に際し、動詞の意味という観点も考慮する。共起動詞の意味はフランス語の動詞を意味的な観点から網羅的に分類した Dubois et Dubois-Charlier (1997)による意味分類を参考にした。同書では、フランス語の動詞を「コミュニケーション(communication)」、「贈与・はく奪 A (don, privation)⁴」、「移動(entrée, sortie)」、「衝撃・接触(frapper, toucher)」、「状態・態度(états physiques, comportements)」、「位置(locatif)」、「動作(mouvement sur place)⁵」、「贈与・はく奪 B (munir, démunir)⁶」、「心

³ 本文と同様の説明であるが、この表における共起動詞の Fréq. type は 5 例以上の使用が確認できた動詞のものであり、Fréq. Token はそれらに共起する副詞的要素の生起数である。

⁴ 重要性が低い対象の贈与・はく奪を示す。

⁵ 移動に焦点が当てられていない動作を示す。

⁶ 財産等、重要性が高い対象の贈与・はく奪を示す。

理(verbes psychologique)」、「実現(réalisation, mise en état)⁷」、「保持・取得・放棄(sasir, serrer, posséder)」、「変化(transformation, changement)」、「接合・分離(union, réunion)」、「助動詞(verbes auxiliaires)」の14グループに分類している。

ただし、この意味分類は必ずしも十分ではない点が見られるため、本研究では確認できたデータをもとに適宜再検討を行っている。

5. 結果と分析

5.1. fort と fortement の競合について

5.1.1. [V + fort]の場合

まず、共起動詞の Fréq. Type が最も高い [V + fort]表現を扱う。fort は DHAA において共起動詞の Fréq. Type が最も高い AA として記述されていた。また、関 (2024)の調査でも同様の結果であった。

表 4：fort の Fréq. Token と共起動詞の Fréq. Type

AA	AA の Fréq. Token	共起動詞の Fréq. Type
fort	3025	115

また、fort は共起動詞のタイプが多だけでなく、共起動詞の意味も多様である。fort に共起する動詞の意味分類は下の表 5 の通りである。11 の分類に分けられるほか、構成性の低い、つまり成句的な表現に出現する動詞も 2 語確認された。

表 5：fort と共起する動詞の意味分類

意味分類	動詞の Fréq. Type	動詞の例 (カッコ内の数字は Fréq. Token) ⁸
心理	39	aimer (50), croire (7), admirer (5) 等
状態・態度	27	briller (31), ressembler (24), entendre (6) 等
コミュニケーション	20	parler (289), chanter (20), aboyer (5) 等
移動	12	courir (6), aspirer (5), avancer (5) 等
保持・取得・放棄	11	serrer (338), mordre (12), pincer (11) 等
衝撃・接触	8	battre (110), cogner (40), applaudir (14) 等
動作	5	secouer (13), agiter (6), tourner (5) 等

⁷ 物質の形状や状態に変化を加える動作を示す。

⁸ 表 4 に記している通り、fort は共起動詞の Fréq. Type が高いため、ここでは代表例のみを記載するにとどめたい。

助動詞 (起動)	3	commencer (7), démarrer (7), reprendre (7)
位置	2	appuyer (50), presser (18)
変化	2	rougir (6), bander (5)
構成性低い表現	2	y aller fort (44), monter en graine (1)
接合・分離	1	attacher (6)

さらに、fort 自身の意味も共起する動詞に応じて「程度(例文 5)」、「声の大きさ(例文 6)」、「物理的な力強さ(例文 7)」、「移動の速さ(例文 8)」、「起動の速さ(例文 9)」という 5 つの意味を持ちうる(cf. 関 2024)。

(5) Je l'ai lu en pensant à toi et en t'aimant fort (et en même temps ceux qui l'ont écrit.)

「私はあなたのことを思い、あなたを(そしてこれを書いた人たちのことも)とても愛しく思いながらそれを読んだ。」

(Jung Matthieu, Le Triomphe de Thomas Zins, 2018, p.641)

(6) Des trombes d'eau s'abattaient sur le toit. Il fallait parler assez fort.

「土砂降りの雨が屋根を叩いていた。かなり大きな声で話さなくてはいけなかった。」

(DJIAN Philippe, 37°2 le matin, 1985, p.220)

(7) J'ose quand même prendre sa main entre les miennes, et la presser plus fort que d'habitude.

「私はそれでも彼女の手を両手でつかもうとし、いつもより強く握ろうとした。」

(HANF Verena, Tango tranquille, 2013, p.138)

(8) Merle court si fort (...) que sa chemise de nuit colle à son ventre.

「メルルは(...)かなり速く走っているため、ナイトドレスがおなかに張り付いている。」

(GARAT Anne-Marie, Merle, 1996, p.148)

(9) On conseille à ceux qui courent, et qui veulent courir longtemps, de ne pas commencer trop fort, de partir lentement (...).

「ランニングをする人や長い時間走りたい人に対しては、いきなり始めすぎないこと、ゆっくりとスタートすること(...)を勧めている。」

(JENNI Alexis, L'Art français de la guerre, 2011, p.296)

5.1.2. [V + fortement]の場合

fortement の Fréq. Token、共起動詞の Fréq. Type はいずれも fort の場合と比べて小さいと言える。[V + fort]の Fréq. Token が 3025 であったのに対して、[V + fortement] の Fréq. Token は 92、fort と共起する動詞の Fréq. Type は 115 であったのに対し、fortement と共起する動詞の Fréq. Type は 8 であった(表 6)。

表 6：fort と fortement の Fréq. Token と共起動詞の Fréq. Type

AA	AA の Fréq. Token	共起動詞の Fréq. Type	-ment 副詞	-ment 副詞の Fréq. Token	共起動詞の Fréq. Type
fort	3025	115	fortement	92	8

表 7：fortement と共起する動詞の意味分類

意味分類	動詞の Fréq. Type	動詞 (カッコ内の数字は Fréq. Token)
心理	4	impressionner (21), ressentir (10), penser (8), déplaire (6)
コミュニケーション	1	parler (6)
移動	1	respirer (7)
位置	1	appuyer (10)
保持・取得・放棄	1	serrer (24)

また、共起動詞が属する意味分類の分布も fort の場合とは異なる(表 7)。fortement に共起する動詞に関して、タイプが最も多い分類は fort の場合と同じ「心理」である。しかしながら、fort に共起する動詞が 2 番目に多く属する分類であった「状態・態度」はここでは確認できなかった。

fortement の意味に注目すると、「程度(例文 10)」を示すものと「力の強さ」を示すものが見られた。これは意味的に fort と競合するものであると考えられる。

(10) La lecture de tous ces magazines m'avait *fortement* impressionné.

「私が読んだ雑誌はどれも強い(強く)印象を与えた。」

(MODIANO Patrick, Villa Triste, 1975, p.64)

5.1.3. fort および fortement に共起する動詞の対照

下の表 8 は、fort と fortement の間で共起動詞の意味分類を対照したものである。

表 8：fort と fortement に共起する動詞の意味分類の対照

fort		fortement	
意味分類	属する動詞の Fréq. Type	意味分類	属する動詞の Fréq. Type
コミュニケーション	20	コミュニケーション	1

移動	12	移動	1
衝撃・接触	8	位置	1
状態・態度	27	心理	4
位置	2	保持・取得・放棄	1
動作	5		
心理	39		
保持・取得・放棄	11		
変化	2		
接合・分離	1		
助動詞 (起動)	3		
構成性低い表現	2		

fortement に共起する動詞が属する意味分類は、いずれも fort に共起する動詞が属する意味分類でもある。個別の語彙に注目しても、fort のみに共起する動詞は 115 語中 108 語である一方、fortement に共起する動詞は déplaire を除きいずれも fort にも共起していた。

5.2. net と nettement の競合について

5.2.1. [V + net]の場合

net は上で扱った fort の場合と比べて、AA の Fréq. Token および共起する動詞の Fréq. Type とともに大きく数を減らし、それぞれ 597、16 となっている(表 9)。

表 9 : net の Fréq. Token と共起動詞の Fréq. Type

AA	AA の Fréq. Token	共起動詞の Fréq. Type
net	597	16

また、共起動詞の意味分類に注目すると下の表 10 の通りとなる。コーパスデータに注目すると、この表現では Dubois et Dubois-Charlier (1997)でなされたものより細かい動詞意味分類を提示する必要性が指摘できる。たとえば、net に共起し、「動作」の分類に属する動詞は 6 語確認されたが、それらはいずれも「停止」を示すものであった。また「実現」の分類に属する動詞は 5 語確認されたが、これらはいずれも「破壊」もしくは「切断」を示すものであった。このことから、「動作」や「実現」を示す動詞が必ずしも net と共起できるわけではなく、話者は共起動詞に対してより具体性の高い制約を課していると考えらるべきである。

表 10 : net と共起する動詞の意味分類

意味分類	動詞の Fréq. Type	動詞 (カッコ内の数字は Fréq. Token)
動作(停止)	6	arrêter (264), stopper (47), interrompre (18), bloquer (10), piler (10), immobiliser (8), taire (5)
実現 (破壊・切断)	5	couper (66), briser (37), casser (21), trancher (20), tuer (15)
コミュニケーション	2	dire (15), parler (13)
移動	1	tomber (8)
心理	1	refuser (40)

ところで、表 2 で確認したように、net はもともと「明瞭な」、「正確な」という意味を持っているが、AA としての使用では別の意味を示す場合が多い。本調査の限りでは、「コミュニケーション」や「心理」を示す動詞と共起する場合には「明確に」という本来の意味を保持していたが、その他の動詞と共起する場合は「突然」という派生した意味を示していた(例文 11)。

(11) Lorsqu'elle se rendit compte de sa présence à une dizaine de mètres d'elle, elle s'arrêta net.

「約 10 メートル先に彼(女)の存在に気づき、彼女は突然止まった。」

(DICKER Joël, La Vérité sur l'Affaire Harry Quebert, 2012, p.79)

5.2.2. [V + nettement]の場合

nettement の Fréq. Token は 220、共起する動詞の Fréq. Type は 13 であった。net / nettement の間で Fréq. Token に 2 倍以上の差が見られる。これは net と共起する動詞の中に arrêter (264 例)のように相対的に Fréq. Token の高い語が確認できたことに起因すると考えられる。Fréq. Type に注目すると、net に共起する動詞の Fréq. Type は 16、nettement に共起する動詞の Fréq. Type は 13 であり、両者の差異はわずかだといえる。これは上の fort / fortement のペアとは異なる傾向である。fort に共起する動詞の Fréq. Type が 115 である一方、fortement に共起する動詞の Fréq. Type は 8 と大きな差異が見られたのだ。

表 11 : net と nettement の Fréq. Token と共起動詞の Fréq. Type

AA	AA の Fréq. Token	共起動詞の Fréq. Type	-ment 副詞	-ment 副詞の Fréq. Token	共起動詞の Fréq. Type
net	597	16	nettement	220	13

表 12 : *nettement* と共起する動詞の意味分類

意味分類	動詞の Fréq. Type	動詞 (カッコ内の数字は Fréq. Token)
状態・態度(知覚)	7	voir (53), distinguer (29), entendre (27), sentir (18), percevoir (10), apercevoir (7), revoir (5)
状態・態度 (認識)	3	détacher (20), découper (12), marquer (5)
心理	2	préférer (12), souvenir (6)
コミュニケーション	1	dire (16)

nettement に共起する動詞の意味に注目すると、属する動詞のタイプが最も多い分類は「状態・態度」で9語が該当した。しかしながら、「状態・態度」を示す語であればいかなる語でも *nettement* と共起できるわけではない。本調査では、視覚や聴覚など「知覚」を示す動詞(例文 12)、何らかの対象物を他の背景的存在から際立たせて「認識」させることを示す動詞(例文 13)の共起が複数確認された。

(12) Victor entendit *nettement* la musique de l'orgue, la mélodie du cantique.

「ヴィクトルにはオルガンの音楽、賛美歌のメロディーがはっきりと聞こえた。」

(JONQUET Thierry, *Le Rouge c'est la vie*, 1998, p.20)

(13) Les silhouettes se détache si *nettement*, sur le fond terne d'argile et de paille, que nous pouvons sans peine reconnaître les hommes qu'elles sont.

「どの人のものか容易にわかるほど、粘土と藁からなるくすんだ色の背景には、シルエットがはっきりと浮かび上がっている。」

(GENEVOIX Maurice, *Ceux de 14*, 1950, p.381)

5.2.3. net および *nettement* に共起する動詞の対照

下の表 13 は net と *nettement* の間で共起動詞の意味分類を対照したものである。

ここで取り上げる net / *nettement* のペアの特徴として、共起動詞の分布がおおむね相補的であることが指摘できる⁹。意味的な分類という観点から見ても、双方の副詞的要素との共起が確認できる分類は、属する動詞の Fréq. Type が相対的に低い「コミュニケーション」と「心理」のみである。個別の語で見た場合、双方の語と共起可能な動詞は「コミュニケーション」の分類に属する *dire* のみであった。

この点に関して、上述したように「停止」や「破壊・切断」、「移動」を意味する動詞と共起する場合、net は「突然」という時間的な意味を持っている。この意味は *nettement* には確認されないものである。このように net / *nettement* には意味の観点から部分的な

⁹ これは 5.1. で取り上げた fort / *fortement* の場合と対照的である。このペアにおいて *fortement* との共起が確認された動詞は *déplaire* を除きいずれも fort と共起していた。

差異が見られ、このことが共起動詞の分布にも影響を及ぼしているのではないかと考えられる。

表 13：net と nettement に共起する動詞の意味分類の対照

net		nettement	
意味分類	属する動詞の Fréq. Type	意味分類	属する動詞の Fréq. Type
コミュニケーション	2	コミュニケーション	1
移動	1	状態・態度(知覚)	7
動作(停止)	6	状態・態度(認識)	3
心理	1	心理	2
実現 (破壊・切断)	5		

5.3. dur と durement の競合について

5.3.1. [V + dur] の場合

[V + dur] の場合、AA の Fréq. Token は 210、共起動詞の Fréq. Type は 8 であった。最も Fréq. Token の多い動詞は 86 例確認された travailler であり、続いて 70 例の croire であった。

表 14：dur の Fréq. Token と共起動詞の Fréq. Type

AA	AA の Fréq. Token	共起動詞の Fréq. Type
dur	210	8

表 15：dur と共起する動詞の意味分類

意味分類	動詞の Fréq. Type	動詞 (カッコ内の数字は Fréq. Token)
状態・態度	3	travailler (86), trimer (11), bander (6)
衝撃・接触	3	cogner (16), taper (11), frapper (5)
心理	1	croire (70)
変化	1	bander (6)
構成性低い表現	1	mener (5)

共起動詞の意味分類という観点に着目すると、属する語が最も多い分類は「状態・態

度」と「衝撃・接触」であった。さらに個別に見てゆくと、「状態・態度」に属する3語のうち2語は「働く」を意味する *travailler* と *trimer* であり(例文 14)、「衝撃・接触」に属する語3語はいずれも「叩く」を意味する語であった。

また、形容詞の意味という観点では、*dur* には「程度」、「物理的な力強さ」、「動作の結果としての状態・態度」を示す場合が確認された(cf. 関 2024)。

(14) Ils ont sûrement dû *travailler dur* pour avoir tout ça et c'est une chose que j'apprécie.

「彼らはこれらすべてを得るために確実に一生懸命働かなくてはいけなかった。そしてそこが私の評価していることなのです。」

(BOUILLIER Grégoire, Le dossier M. Livre 1, 2017, p.242)

5.3.2. [V + durement]の場合

[V + durement]表現に出現する動詞の Fréq. Type は 11 であり、Fréq. Token は 101 であった。さらに、意味的に見てゆくと、属する動詞の Fréq. Type が最も高い分類は「状態・態度」の 4 語であった。「状態・態度」に属する動詞の Fréq. Type が最も高いことは上で取り上げた[V + dur]の場合と同様である。しかしながら、具体的な語に着目すると差異が見られる。*dur* との共起が確認された *travailler* だけでなく、「視覚」を示す *regarder* や *fixer*、さらに「扱う」を意味する *traiter* の出現も確認できた。

表 16 : *dur* と *durement* の Fréq. Token と共起動詞の Fréq. Type

AA	AA の Fréq. Token	共起動詞の Fréq. Type	-ment 副詞	-ment 副詞の Fréq. Token	共起動詞の Fréq. Type
<i>dur</i>	210	8	<i>durement</i>	101	11

表 17 : *durement* と共起する動詞の意味分類

意味分類	動詞の Fréq. Type	動詞 (カッコ内の数字は Fréq. Token)
状態・態度	4	<i>regarder</i> (16), <i>travailler</i> (9), <i>fixer</i> (6), <i>traiter</i> (6)
コミュニケーション	2	<i>dire</i> (20), <i>parler</i> (16)
保持・取得・放棄	2	<i>gagner</i> (6), <i>tenir</i> (6)
心理	2	<i>ressentir</i> (6), <i>juger</i> (5)
衝撃・接触	1	<i>frapper</i> (6)

また、AA である *dur* に確認されない意味として、*durement* には「厳しく」と訳せる動作主体の態度を示唆する意味機能が見られる(例文 15)。これは *dire* や *parler* のように「コ

コミュニケーション」を示す動詞に共起する場合に表出される意味である。

(15) — Vous êtes complètement cinglé, dit-elle *durement*.

「『あなたは完全におかしい。』彼女は厳しく言った。」

(QUENEAU pseud. Sally Mara Raymond, *Les Œuvres complètes de Sally Mara*, 1962, p.321)

5.3.3. dur および durement に共起する動詞の対照

下の表 18 は dur と durement の間で共起動詞の意味分類を対照したものである。

表 18 : dur と durement に共起する動詞の意味分類の対照

dur		durement	
意味分類	属する動詞の Fréq. Type	意味分類	属する動詞の Fréq. Type
衝撃・接触	3	コミュニケーション	2
状態・態度	3	衝撃・接触	1
心理	1	状態・態度	4
変化	1	心理	2
構成性低い表現	1	保持・取得・放棄	2

dur / durement それぞれに共起する動詞を対照する。意味的な分類の観点からすると、双方の語に関係する分類は「衝撃・接触」、「状態・態度」、「心理」の3分類にわたっている。しかしながら、個別の動詞に着目すると、双方の副詞的要素に共起する語は「状態・態度」に属する *travailler* と「衝撃・接触」に属する *frapper* のみである。「心理」に属する語はいずれもどちらか一方と共起するにすぎない。

6. おわりに

本論文では、比較的出現頻度の高いと考えられる AA と -ment 副詞のペアの使用を対照した。再掲となるが、本稿の目的は AA と -ment 副詞の間で出現条件ならびに生産性の差異を分析することであり、出現条件とはどのような動詞と共起するかを指し、生産性は共起語(動詞)の多寡、および意味的なバリエーションを示している。

表 19 : AA と -ment 副詞の対照まとめ

語彙	共起動詞の Fréq. Type	共起動詞の分布
fort – fortement	AA 優勢	非相補的
net – nettement	差異少ない	相補的
dur – durement	差異少ない	相補的

調査の結果は表 19 の通りである。fort / fortement に関しては、AA と -ment 副詞の間で共起動詞の Fréq. Type に差が見られた。一方、net / nettement および dur / durement に関しては大きな差が見られなかった。また、fort / fortement に関しては、共起動詞の Fréq. Type が少ない[V + fortement]表現に出現する動詞の多くは共起動詞の Fréq. Type が多い[V + fort]表現にも出現する。つまり、前者に出現する動詞の多くは後者に出現する動詞と重複しており非相補的であった。一方、net / nettement の場合、双方に出現する動詞は dire のみ、dur / durement に関しては双方に出現する動詞は travailler と frapper のみと少数であった。つまり、共起動詞として両者の間で重複する語は少なく、おおむね相補的な分布であった。これに関する背景の 1 つとして、fort / fortement は意味的な差異の少ない用法が大勢を占めていた一方、net / nettement は AA と -ment 副詞の間で意味の異なる場合が多かったことを指摘できる。

本研究では DHAA を基に比較的使用頻度が高く、かつ共起動詞のタイプが多い AA とそれに対応する -ment 副詞のペアを選択し、コーパスデータに基づいて対照した。この調査を通じて、それぞれのペアにおける出現条件および生産性の差異を一定程度概観できた。しかしながら、本研究の目指す目的をより綿密なかたちで達成するためには、各動詞と AA からなる個々の表現により注目してゆく必要があると思われ、これに関する詳細な分析は今後の課題とさせていただきたい。

参考文献

- Abeillé, A et Godard, D. (2004) : « Les adjectifs invariables comme compléments légers en français », *L'adjectif en français et à travers les langues*, Presses Universitaires de Caen, pp.209-224.
- Abeillé, A et Mouret, F. (2010) : « Les compléments adjectivaux des verbes transitifs en français », *Les Tables, La grammaire du français par le menu, Mélanges en hommage à Christian Leclère*, Cahier du Cental, Presses universitaires de Louvain.
- Dubois, J et Dubois-Charlier, F. (1997) : *Les verbes français*, Larousse-Bordas.
- François, J, Le Pesant, D et Leeman, D. (2007) : « Présentation de la classification des Verbes Français de Jean Dubois et Françoise Dubois-Charlier », *Langue française*, 153, pp.3-19.
- Goes, Jan. (2008) : « Les prédications secondes à prédicat adjectival », *Travaux de Linguistique*, 57, De Boek Supérieur, pp.23-41.
- Guimier, C et Oueslati, L. (2006) : « Le degré de figement des constructions « verbe + adjectif invarié » », *Composition syntaxique et figement lexical*, PUC, pp.17-37.

- Hummel, M. (2013) : « Attribution in Romance: Reconstructing the Oral and Written Tradition », *Folia Linguistica Historica*, 34, pp.1-42.
- Hummel, M. (2017a) : « Adjectives with Adverbial Functions in Romance », *Adjective Adverb Interfaces in Romance*, John Benjamins Publishing Company, pp.13-46.
- Hummel, M. (2017b) : « L'accord adverbial en français », *Revue de sémantique et pragmatique*, 41-42, pp.181-205.
- Hummel, M. (2018a) : « Baseline Elaboration and Echo-sounding at the Adjective Adverb Interface », *Cognitive linguistics*, 29: 3, De Gruyter Mouton, pp.407-452.
- Hummel, M. (2018b) : « La structure 'verbe + adjectif'. Parler vrai, dire juste, faire simple et compagnie », *Revue Romane*, 53: 2, pp.261-296.
- Hummel, M. (2018c) : « Romance Sentence Adverbs in -mente: Epistemic Mitigation in Synchrony and Diachrony », *Linguistik online*, 92: 5, pp.111-144.
- Hummel, M et Gazdik, A. (2014) : « Le Dictionnaire historique de l'adjectif-adverbe : de aimer haut à baiser utile », *Congrès Mondial de Linguistique Française – CMLF 2014*, pp.587-603.
- Hummel, M et Gazdik, A. (2021) : *Dictionnaire historique de l'adjectif-adverbe*, De Gruyter.
- Moignet, G. (1963) : « L'incidence de l'adverbe et l'adverbialisation des adjectifs », *Travaux de linguistique et de littérature*, 1, pp.175-194.
- Moline, E et Stosic, D. (2016) : *L'expression de la manière en français*, OPHRYS.
- Noailly, M. (1994) : « Adjectif adverbial et transitivité », *Cahier de grammaire*, 19, pp.103-114.
- Noailly, M. (1999) : *L'adjectif en français*, OPHRYS.
- 関敦彦. (2017) : 「現代フランス語において動詞に後置される形容詞」 『言語・地域文化研究』 23, 東京外国語大学大学院総合国際学研究所, pp.197-210.
- 関敦彦. (2018) : 「フランス語の副詞的形容詞に関するコーパス間の比較」, 『ロマンス語研究』 51, pp.95-104.
- 関敦彦. (2019) : 「フランス語の副詞的形容詞が出現する構文について « payer cher » の場合」, 『ふらんぼー』 44, 東京外国語大学フランス語学研究室フランス研究会, pp.83-102.
- 関敦彦. (2021a) : 「フランス語の「動詞+副詞的形容詞」表現と強意の副詞 serrer fort、parler fort、aller fort の場合」, 『ふらんぼー』 46, pp.77-96.
- 関敦彦. (2021b) : 「フランス語の副詞的形容詞と凝結表現」 『ロマンス語研究』 54, pp.37-46.
- 関敦彦. (2024) : 『フランス語の副詞的形容詞について：コーパスデータに基づくスキーマ化の試み』, 東京外国語大学大学院総合国際学研究所博士後期課程, 博士論文.

(最終原稿受理日 2025 年 7 月 14 日) . (せき あつひこ / 東京外国語大学非常勤講師)